



公益財団法人CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

Facebook ウェブサイト上のニュースや、CIESFからのお知らせ、裏話などをお届けしています。投稿やコメントなども残していただけると嬉しいです。http://www.facebook.com/ciesf

gooddo gooddoのCIESFのページに行き、「応援する」というボタンをクリックすると「応援ポイント」が貯まります。ポイントに応じて支援金が届けられます。http://gooddo.jp/gd/group/ciesf/?md=fb

お世話になっております。CIESF(シーセフ)をご支援くださる皆さま、いつもありがとうございます。そして、このニュースレターを手にして下さった方々、出会いに感謝しています。梅雨が明け、途上国に猛暑です。一部では、カンボジアより暑いと言われている日本の夏ですが、くれぐれも熱中症にはお気を付けください。



東京のロータリークラブの皆様から支援先学校の教員養成校へ教材の寄贈があります。新しい教材を使って新しい教師がどんどん育っています

「国境なき教師団」応援団募集
CIESFでは、カンボジアの現場で活動する「国境なき教師団」のサポートメンバーである応援団を結成し、日本の教育アドバイザーの活動だけでなく、教材づくりのコツや伝え方など、多くの教育の質の向上・教育の質の向上に寄与して行きたいと思っています。

印刷物によるご支援ありがとうございます！
株式会社オビカ様(東京都杉並区)印刷業は、毎年のCIESFの活動報告書の印刷をご支援で行ってくださっています。また、皆さまにお送りする際に使用する封筒も、ご支援にて作成してくださりました。ありがとうございます。



「かざして募金」はじめました
スマートフォンやタブレットのアプリで募金ができる「かざして募金」をはじめました。まずは「かざして募金」アプリをダウンロードします。

「かざして募金」はじめました
スマートフォンやタブレットのアプリで募金ができる「かざして募金」をはじめました。まずは「かざして募金」アプリをダウンロードします。



カンボジアをはじめとした途上国の教育支援を行っている私たち公益財団法人CIESFは、日本の教育について少し調べて、考えてみることにしました。現在カンボジアにおいては、学校という建物(ハードウェア)ではなく、教育の中心(ソフトウェア)の支援を行っています。具体的には、教師の質の向上を目指し、派遣する「国境なき教師団」事業、そしてカンボジア教育省の若手官僚から国の教育政策を担う人材を育成する教育政策大学院大学の運営事業です。

ポスター・リーフレット・活動報告書・募金箱の画像から募金ができます



アントレプレナーフェスティバルの会場にて、カンボジアの若者へ話をする石塚信司社長(ブンベン)

株式会社リンクブレイン
インタビュー第1回目は今号では、学習塾「TTO個別指導学院」をフロンチャイで47店舗(2014年8月1日現在)運営している株式会社リンクブレイン(東京都江東区)の石塚社長をご紹介します。

石塚社長が、株式会社リンクブレインを立ち上げたのは、2005年。それまでは外食産業の会社で勤めていました。外食産業からなぜ教育事業？この点は多くの方から質問されるそうです。「いまの子どものために生きる力が足りない、そう思いました。子どもたちを取り巻く環境は、いいとは言えません。いじめや学級崩壊、ひきこもりやニートなど、さまざまなことが社会問題化しています。詰め込み教育や点数による振り分けで、子どもたちの生きる指針はまるで学校の点数だけしかないように思われています。石塚社長は、努力していい成績を取っていても、大学に入った途端あきらむ社会に出た途端に生きる目標を見失って対応できない社会人も増えています。そこを何とかしなければ、日本はお先真っ暗、夢も希望もない国になってしまう、石塚社長はそう考えました。

石塚社長が、株式会社リンクブレインを立ち上げたのは、2005年。それまでは外食産業の会社で勤めていました。外食産業からなぜ教育事業？この点は多くの方から質問されるそうです。「いまの子どものために生きる力が足りない、そう思いました。子どもたちを取り巻く環境は、いいとは言えません。いじめや学級崩壊、ひきこもりやニートなど、さまざまなことが社会問題化しています。詰め込み教育や点数による振り分けで、子どもたちの生きる指針はまるで学校の点数だけしかないように思われています。石塚社長は、努力していい成績を取っていても、大学に入った途端あきらむ社会に出た途端に生きる目標を見失って対応できない社会人も増えています。そこを何とかしなければ、日本はお先真っ暗、夢も希望もない国になってしまう、石塚社長はそう考えました。

塾の弱点と大人の影響力
塾である限りは「成績向上と受験の結果」はついて回ります。しかし、ここだけを目的とすると、子どもにも考えさせることができなくひたすら詰め込みになってしまう。受験に向かっただけで頑張った子が、入学後に目標を見失って生きている力が希薄になってしまったりと続いている。なぜ、これから先ずっと続いている人生そのものに立ち向かうことを教えられないのか？それこそ、受験を目的化してしまわざるをえない塾の最大の弱点なのです。つまり受験が終わったら、後のことは知らないよ、ということ(石塚)。

「7つの習慣」を原典とした「7つの習慣」出版(1996年)は原著の初版と合わせて全世界で2000万部を超える大ベストセラーです。本のほか、セミナーやCDで多くのビジネスパーソンがこの極意を学んでいます。7つの習慣を日本の小学・中学校・高校生向けにアレンジしたプログラム「7つの習慣J」というものがあり、TTO個別指導学院は教育プログラムとしてこれを導入している塾です。サラリーマン時代「7つの習慣」をむきほり読んで感銘を受けた石塚社長は、「これだ！」と飛びついたそうです。この塾ならば、成績向上や受験合格だけでなく、子どもたちの生きる力を養うお手伝いのできるのではないかと。



チャレンジを通じて、実践的な力を養う
石塚社長がTTO個別指導学院を通じて取り組んでいるのが、「チャレンジキャンプ」(これは、一般社団法人チャレンジ教育協会が主催する、小学生・中学生・専門学生を対象とした「自分で決めた目標に挑戦する」大会です。塾に通う生徒にこの大会に出場することによって、目標をもって半年間それに取り組むことを促しています。いくつか内容を紹介します。

「7つの習慣J」を実践するためにチャレンジキャンプに出場する。受験勉強だけでなく塾のこういって取り組むが、子どもたちの生きる力をつけていくのだと、インタビューを受けて感じました。石塚社長は、

起業の際に掲げた目標のために、着実に実績を積み上げ、多くの子どもたちに影響を与える塾を作り上げています。実は、株式会社リンクブレイン様とは、ご縁があり、CIESFの法人サポーターとしてご支援をいただいております。CIESFに對してだけでなく、石塚社長は、カンボジアにおける雇用創出を目指して、カンボジアの国民の80%が

「7つの習慣J」を実践するためにチャレンジキャンプに出場する。受験勉強だけでなく塾のこういって取り組むが、子どもたちの生きる力をつけていくのだと、インタビューを受けて感じました。石塚社長は、

「7つの習慣J」を実践するためにチャレンジキャンプに出場する。受験勉強だけでなく塾のこういって取り組むが、子どもたちの生きる力をつけていくのだと、インタビューを受けて感じました。石塚社長は、

「7つの習慣J」を実践するためにチャレンジキャンプに出場する。受験勉強だけでなく塾のこういって取り組むが、子どもたちの生きる力をつけていくのだと、インタビューを受けて感じました。石塚社長は、

「7つの習慣J」を実践するためにチャレンジキャンプに出場する。受験勉強だけでなく塾のこういって取り組むが、子どもたちの生きる力をつけていくのだと、インタビューを受けて感じました。石塚社長は、

【カンボジア教員養成校の現場から】 プレイベン小学校教員養成校のある授業で、学級代表の女子学生に「模擬授業のつもりでやってごらん」と、先生役を振り向けた。プリントを見ながら、作り方の説明をして、理解できたか確認をしました。自分でも、同じように作りながら、各グループの机を見て回って、一人一人の進み具合を確かめたり、質問に応じたりしているのです。本当にすごいことです。机間巡視の大切さや必要性を完全に理解して実行していることがすごいです。なぜなら、カンボジアでは、机間巡視の重要性を理解し、実行に移している教員はほとんどいません。しかし、この学校で学んだ学生は、机間巡視の意味を理解し、実行していたのです。学生が育っています。(CIESFウェブサイト「教育アドバイザーの活動日誌」より抜粋)



従事する農業への支援も行っています。小さなチャレンジからでも、社長自らも目標をもって実践していく子どもたちにとつての憧れの対象になるべき方に見えました。(インタビュー) CIESF事務局・広報担当 増子夕夏)

